

令和6年度 学校における居場所と絆づくり実践研究事業 実施報告書

1 学校名

栃木県立鹿沼南高等学校

2 実施学年等

第2学年

3 生徒に期待する姿

【学校教育目標】

確かな学力と勤労意欲に富み、自己実現を図り社会の期待を担える心豊かな人材を育成する。

【2学年目標】

- (1) 基本的な生活習慣の確立、学習習慣の確立
 - ① 時と場に応じた行動を心掛けさせる
 - ② 気持ちよい挨拶を励行し、きちんとした身だしなみを徹底する
 - ③ 家庭学習の習慣を身に付ける
- (2) 進路決定のための土台作り、社会性の育成
 - ① インターンシップ等を通して、自分の適性や将来について考えさせる
 - ② 修学旅行を通して、適切な集団生活に必要な規律意識を育てる
 - ③ 学校における生徒の居場所づくり、絆づくりを図る
- (3) 指導の統一(共通理解)、保護者との連携
 - ① 個人面談等により生徒の状況を把握する
 - ② 学年内で連携や指導の統一を図るため、情報交換を密にする
 - ③ 誠意ある行動を心がけ、保護者との信頼関係構築を目指す

4 本事業の内容

- (1) 年度途中における欠席状況等の分析及び不登校の兆候が見られる生徒を対象とした初期対応の取組
- (2) アンケート調査による実態把握及びすべての生徒を対象とした不登校の未然防止に向けた取組の工夫
- (3) 年3回の学校訪問

【第1回学校訪問】	【第2回学校訪問】	【第3回学校訪問】
令和6年6月	令和6年12月	令和7年3月
○ 本事業の趣旨説明	○ アンケート調査結果の分析	○ アンケート調査結果の分析
○ 欠席状況の把握	○ 4～11月における10日以上	○ 4～2月における20日以上
○ アンケート調査結果の分析	の欠席者数の確認	の欠席者数の確認
○ 学校の取組状況の把握	○ 1学期の状況を踏まえた2学	○ 12月からの変化を踏まえた
○ 今後の取組について検討	期の取組についての助言	今後の取組についての助言

※ 訪問時には、生徒の欠席状況等の分析をしながら、支援状況の確認、関係機関との連携支援等について情報共有をしたが、本報告書においては、個人情報保護の観点から内容は割愛する。

5 具体的な取組等

(1) 2学年の取組（不登校対策の視点から）

予 防	未然 防 止	全 て の 生 徒 対 象	<p>○ 生徒に関する情報の共通理解、先生方の生徒理解に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年打ち合わせにおける各クラスの情報共有 (生徒の課題だけでなく、生徒の頑張り成長などについても共有する) ・ 学期初めの面談週間実施 ・ 生徒指導部との密な連携 ・ 担任の先生から欠席した生徒保護者への電話連絡 ・ 保護者との情報交換 ・ 養護教諭との連携 ・ スクールカウンセラーの活用 ・ 部活動顧問との情報交換 ・ 先生方による部活動の大会の応援 ・ 適切な言葉遣いの指導 ・ 生徒理解アンケートの実施 ・ 朝の打合せの活用(共通理解) ・ Teamsを活用した出欠状況の確認 ・ Q-U 検査の活用 	<p>○ 生徒同士の相互理解や仲間づくり、生徒の主体的な活動を意図した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人一人の学校生活における目標の確立 ・ 清掃や係活動における責任ある行動の促進と自己有用感の感受 ・ インターンシップの事前指導 ・ インターンシップの振り返り、報告書の共有 ・ 進路に関する話題の提供 ・ 定期試験に向けた準備、振り返りをとおして、集団の学習意識の高揚を図る ・ 学年の掲示板に、部活動の大会についての予定や結果を写真付きで掲示 ・ 組授業の編成を工夫 ・ 学年レクリエーションにおける生徒の主体な企画・運営 ・ 生徒会行事の企画・運営 ・ 修学旅行の事前指導、振り返りをとおして、周囲への配慮や責任ある行動を育成
	初期 対 応	生 徒 対 象 気 に な る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒面談の実施 ・ 保護者との情報共有 ・ 関係する先生方との情報共有 	
支 援		生 徒 対 象 必 要 な	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任と教科担任、生徒指導部長との密な連携 ・ 欠席した生徒保護者への電話連絡 ・ 養護教諭との連携 ・ スクールカウンセラーの活用 ・ スクールソーシャルワーカーの活用 ・ ケース会議の実施 	

6 成果

- 体育祭や文化祭等の学校行事を通して、各クラスにおける連帯感が一層強まり、生徒同士が互いを思いやる言葉かけが増加した。
- 部活動の取組の様子を掲示したことで、生徒が他の部活動の大会を応援したり、互いに励まし合ったりする姿が見られるようになり、学年全体の相互支援の雰囲気が高まった。
- クラス対抗の学年レクリエーションを実施し、協力して取り組む経験や仲間を 応援する場面を通して、クラスとしての結束が強固になった。
- 不登校傾向の見られた生徒に対し、担任が早期に対応した結果、各クラスで2～3名程度の長期欠席の改善につながった。



7 今後の取組

- 3年生として高校生活最後となる学校行事に主体的かつ意欲的に取り組めるよう支援し、卒業に向けてより良い思い出を形成するとともに、生徒間の交流を一層深め、学校生活への参画意識を高めていく。
- 部活動において努力を重ねている生徒を積極的に応援し、大会予定や結果について積極的かつ継続的にアナウンスを行うことで、学校全体として生徒の活動を称え合う雰囲気づくりを推進する。
- 進路実現に向けた面接練習等の場面において、生徒同士が互いに高め合い、助け合う姿勢を育成することにより、協働的な学習環境の醸成を図っていく。

[県教育委員会担当者のコメント]

鹿沼南高等学校2学年においては、担任の先生方が生徒の居場所づくりと絆づくりのためにアイデアを出し合い、学年主任が上手に調整するといった体制が伺えました。また、日々の教育活動で見られた生徒の頑張りや成長についても、綿密に共有しながら生徒指導が行われている様子が感じられました。

定例の学年会議では、生徒の頑張りや成長を共有したことで、先生方の生徒への日頃の声かけも変わり、生徒の自己有用感や自己肯定感の高まりにつながったのではないかと考えています。また、廊下には部活動の大会予定や結果報告が掲示されたり、教室内ではインターンシップの振り返りが共有されたりすることにより、生徒の地道な活動や大会等での活躍が、他の生徒からも見える、認められる機会が提供されていました。さらに、卒業までクラス替えない実情を踏まえ、生徒の人間関係(居場所)が少しでも広がるよう、体育の組授業は卒業までに他のすべてのクラスと組めるよう工夫されていました。

このような日々の取組を通じて、生徒は安心して学校生活を送ることができており、結果として、欠席の長期化の予防につながっていると感じています。また、気になる生徒の情報共有を早期に行い、ケース会議等を実施したことも有効であったとお聞きしました。

来年度も、先生方の温かみのある取組の工夫等を通じて、生徒が「生徒に期待する姿」に近づき、進路実現をしていくことを期待しています。